

高木芳基(ザ・マスミサイル)

寒さで外に出るのが億劫になり始めた12月某日。JUNGLE★LIFE編集部と高木芳基(33)と大阪府吹田市議会議員・神谷宗幣(33)。バンドマンが政治発売される『100人の龍馬』という本に、ザ・マスミサイルの書き下ろし楽曲“龍馬プロジェクト”の会長を勤めるのが神谷氏だという。よっくんは“龍馬プロジェクト”とは何なのか？ なんだか2人の会話が面白そうだから、

高木芳基と神谷宗幣の出会い

●よっくんが政治家の方を連れてくるなんて、ビックリしましたよ(笑)。

よっくん：何事かと思うよね。

神谷：僕も最初話をもらった時は、ちょっとビックリした(笑)。

●そもそもお二人はどのような関係で？

神谷：高木くんが高校時代に付き合っていた彼女が、僕の大学の時の彼女で。

●え、いきなりぶっつけあいますね。

2人：(笑)。

神谷：僕は大学の時から政治家を目指していたんですけど、その彼女が「私が昔付き合っていた人も、今夢を追い掛けているんだ」って言ってて。その時はそれだけだったんですけど、彼女と別れた後に「前に言っていた人がデビューして今度テレビに出るから観てみて」って連絡があったから、観てみたんです。

よっくん：それがもう2004年とかだよな。

神谷：当時僕は親父の会社が潰れたり、色々と精神的にしんどい時期で。でもその時に初めてザ・マスミサイルの曲を聴いて、めちゃくちゃ元気をもらったんですよ。それからCDも買って、本当にずっと聴いていて。

●純粋にザ・マスミサイルのファンになった。

神谷：それから29歳で政治家になれた時に、当時の彼女に「高木くんの歌で動まされたから、お礼が言いたい」って話したんですよ。でもそこから直接会って話をするまでにまた1〜2年かかるんですけど。

よっくん：その間ライブを観に来てくれていたんだよね？

神谷：そうそう、こっそりね(笑)。それでようやく2年前くらいに、たまたま僕が東京に行く日があった。そうしたらやっぱりジャンルは違うけど“若い世代にメッセージを送りたい”っていう点だったり、色々通じ合う部分があった。

よっくん：初めて会って話をした時に「僕はザ・マスミサイルの『今まで何度も』っていう曲に励まされて、この曲を聴きながら政治家になろうと頑張ってきた。高木くんなら僕の熱い気持ちを音楽で代弁できると思うから、テーマ曲的なものを書いてほしいんだ」って言われたんだよね。でもその時は神谷くんがどんなヤツかわからないし、僕自身が政治家に対して偏見を持っていた部分もあったから、単純に「面白そう」とは思ってたけど「じゃあ何を歌えばいいんだ？」って思ってた。だから神谷くんが東京に来た時は時間が合えばご飯を食べたり、飲み会に出て神谷くんの周りにいる人たちと会話をしていた。それを繰り返すうちに、神谷くんのことも、周りにいる人たちのこともすごく面白い人なんだなって思うようになったから“曲を書こう”っていう気持ちになったんだよね。

●出会いから曲を書くことと思うまで、2年かかった

わけですね。

よっくん：別に「日本を変えていこうぜ」なんて、歌おうと思えばすぐに歌えるかもしれない。でもミュージシャンとしてのプライドもあるし、それこそ政治の話となると日本に関わることだから、適当なことは絶対に言えないじゃないですか。変に影響力を持たせてもいいなと思うと難しいことだったけど、でも神谷くんたちを知れば知るほど、そういう難しいことがどんどん俺の中で閉ざされていった。

●出会いも含めて、お二人の関係や今回の企画が突拍子もないことではないということはわかりました。ただ、やはり正直なところ“政治家”と絡むと聞く“難しい”だったり“ややこしい”といった印象があるんです。

神谷：政治に対するイメージが悪いんですからね。「政治家なんて悪いヤツばかりだ」って言われても、俺らは正直否定出来ない部分もあって。確かにそう言われても仕方がない人もたくさんいるんですけど、甘んじて受けなければいけない。でも、そうじゃない人も少なからずいるんですよ。僕自身、僕の職業を知らないで話すとすごく仲良しくしてくれるのに、僕が政治家だとわかった途端に「どこの党なの？」とか「どういう経緯で政治家になったの？」って、一歩引いて聞かれるんですよ。僕は無所属だし、政治家になった理由をちゃんと説明すれば「それだったら付き合えるかな」って言うってくれるんだけど、何も説明しないで肩書きだけ見ると、まず引かれる。「政治家って利権にめざめざめという特殊な人がやる職業で、自分たちには関係ない」って思われていることが、この国の一番の問題なんじゃないかって僕は思うんです。

よっくん：俺と初めて会った時、まず一番その話をしてくれたよね。その時に“その通りや”って思った。だってこの人たちが本当にお金も持っていないし、人間臭いんだよ(笑)。市議会議員って、住民の数によって給料も変わってくるんだよね？

神谷：村議会議員とかになると月の給料が10万円前後だったりするから、スーパーでバイトをしながらか議員をやっている人もいますね。

●議員の方がバイトをしてもいいんですか？

神谷：「特別地方公務員」って言って、兼業がOKなんです。

よっくん：議員には「経費」っていうものがほとんどないから、例えば出張をするとなっても、費用を全て給料からまかなわなければならない。俺が最初神谷くんたちに誘われて参加した飲み会でいきなり「だから一生懸命働いている人ほどお金がない世界なんだ」って話を羅列し始めたから、「こいつら面白いな」って思った(笑)。動けば動くほど生活は苦しくなるのに、神谷くんを含め「龍馬プロジェクト」の人たちはバカみたいに全国を駆け回っている人たちなんだよね。それってなんか、説得力があると思うんだ。

●仕事と趣味という部分では違うとして、例え

× 神谷宗幣(吹田市議会議員)

訪ねてやってきたのは(しかも朝10時に)、ザ・マスミサイルのVo.よっくんご家を引き連れて音楽編集部にやってくるとは一体何事か？ 聞くと、12/24に2曲が付いており、その本の著者である100人の龍馬たちが所属するプロジェクトという経緯で神谷氏と出会い、また曲を提供することになったのか？ 少し耳を傾けてみようと思った。

は好きなバンドのライブを観るために遠征をして全国を飛び回る人たちと、経済状況は変わらないってことですね(笑)。

よっくん：飲みに誘われて行ったとしても、絶対にきっちり割り勘やからね！ しかも神谷くんってお酒が飲めないんです。だからいつも黒ウーロン茶を飲んでいて、ある時それがなぜかを聞いたことがあるんだけど、「どうせ割り勘なんだから、単価の低いソフトドリンクよりも少しでも高い黒ウーロン茶を飲むことにしてるんだ」って言って、「ちっちゃー！ そんなヤツが日本を変えれんのかよ！」って思った(笑)。

一同：(爆笑)。

よっくん：でもそこがすごく親近感が湧いた部分でもあるね。神谷くんの周りには政治家の方たちで、本当に普通なんだよ。

神谷：普通よりもちょっとバカくらいですね(笑)。僕たちの仕事って、本当に決まっていることは議に出ることくらいで、あとは基本的に自由なんです。挨拶まわりや冠婚葬祭まわりばかりやっている人もいますし、僕たちみたいにプロジェクトを立ち上げて全国を飛び回っている人もいます。その差たるやすごいよね。だから“政治家”って一つの括りで見るとなると、中にもいる人があるんだって言うのを、まず知ってもらいたいんですよ。

●確かに、知ってみるとすごく意外だけど面白いというか、ザ・マスミサイルの歌の特徴でもある“人間臭さ”とも通じる人たちの集まりなんですね。

よっくん：そもそも俺たちの歌が好きで近寄ってきた人だから、そういう人だよな。

●だからお互い同じ人好きになったんでしょうし(笑)。

神谷：結局そこに戻ります？(笑)。

よっくん：でもお互い上手いかななかったってことは、彼も苦しいヤツが嫌になっちゃったんだらうね。

一同：(爆笑)。

“龍馬プロジェクト”とは？

●先程から話に夢がっている“龍馬プロジェクト”っていうのは、一体どういう集団なんですか？

神谷：皆さんが思っているように今の政治の世界ってあんまり良くなって、真面目に何かをしようとする生命になると、様々な障害が立ちちはたかると。だから僕自身、1人で活動をしていると折れそうになることがあって、でも議員を続けていくうちに、僕と同じような思いの人が少なからずいて、みんなそれぞれ1人で自信なさげに活動をしていることに気付いた。だから僕やその人たちが折れてしまう前に全国を回って同志を集めて、チームを作った方がいいんじゃないかと。

●政治家がチームを作るとなると、“〇〇党”とかになるんじゃないんですか？

神谷：それだと“選挙目的かよ”ってなるし、何かおかしいよね。それにこれはよく勘違いされるんだけど、この“龍馬プロジェクト”は政治家だけの組織じゃないんです。一般の人を入れているから、だったら日本全国を回って仲間を集めて、僕たち若者がワクワクするような国のビジョンを提案できる“プロジェクト”にしよう。それって坂本龍馬が昔、「日本はこのままじゃダメだ」って時に船中八策(※坂本龍馬が幕末維新期、没年に起草した新国家体制の基本方針)を作ったじゃないですか。あれと似ているなと思ったのと、ちょうど大河ドラマ「龍馬伝」もスタートすることだから、わかりやすくいいなということ。で“龍馬プロジェクト”という名前を付けたんです。

よっくん：だから参加メンバーには経営者とかもいるし、政治家の中でもみんな党が「つら」だよな。よく各党の代表に怒られないなと思って。

神谷：いや、怒られている人もいますよ。そこら辺が“ロク”でしょ？(笑)。

よっくん：怒られているんだけど、こままじや変わらないからやっているってことだね。確かに、ロク好きでライブに行きまくっている人の中には、親に怒られている人も多いだろうし(笑)。

神谷：構成メンバーの若い頃の話を聞くと、元暴走族とか元ホストとかもいる。僕自身ももともと学校に行っていなかったりもするしね。

よっくん：そんな人たちだから、とても住む世界が違うとは思えないよね。

神谷：なのにみんな政治家に対して嫌悪感を持ってしまふんだよな。だから投票にも行かないし。今、国民の総資産って1,400兆円あるけど、その8割を50代以上が持っている。残りの2割を40代以下の人が分けて持っているのが現状なんだよね。それで若い人たちは自分たちにお金が降りてこないだとか、不景気だ、就職がないだと言って言うけど、そりゃそうだって思う。だって若い人の投票率が高いなら、政治家は若い人に向けた政策を打つじゃない？

よっくん：確かに。

神谷：別に「僕たちを支持してください」って言うってわけではなくて、ただ単純に「みんなが投票に行けば、ちょっとは自分たちの生活がマシになるのにな」って思うだけで。そうやって若い世代が動き出せば、社会は変わるし、若者が元気になるれば絶対に芸能文化はもっと栄える。だから音楽と政治が全く関係ないなんて、僕は思わないよね。今回12/24に「100人の龍馬」っていう本を出したり、そこで音楽とのコラボをしているんだけど、次は「映画を作りたい」だったり、将来は舞台も計画している。だから「龍馬プロジェクト」は何かしたいの？」って聞かれたら「若い人を元気にして、日本を元気にしたいんです。だから元気にする力を貸してほしいです」っていうことを伝えたいかな。

神谷宗幣

1977年10月12日、福井県生まれ。関西大学在学中に1年間、海外を回る。大学卒業後、高校教師の経験を経て関西大学法科大学院へ進学し、2007年の統一地方選挙で初当選。龍馬プロジェクト全国会長。
<http://www.kamiyasohel.jp/>

『100人の龍馬』で伝えたいこと

●「100人の龍馬」という本を出す意図をお聞きしたいんですが。

神谷: それは今回の対談もそうなんですけど、政治への意識とかイメージを変えたっていうのが一番のコンセプトなんです。

よっくん: 100人の執筆者がいて、俺もその中の1人なんだよね。

神谷: 実は高木くんは今回特殊で、101人目なんだよね。あとの100人は登録メンバーなんだけど、高木くんはあくまで応募者として歌を歌ってもらっているっていう感じで。

よっくん: 「書く?」って言われたら「書く」って言っちゃったけど、「何を書けばいいの?」って聞いたら「政治に思ってること」って超ざっくり言われてさ(笑)。

神谷: 「ザックリ過ぎる」っていうクレームは何件か来た(笑)。でもみんな「僕はこう思ってる」って書いてくれている。あとは高木くんが書ききりしてくれた「生きようぜ」と「宣しく候」の歌詞も載っている。そう考えたら、この本で一番ページを取っているのが高木くんじゃない?

よっくん: そうなんだ。じゃあもう俺の本みたいなもんやん。

神谷: やられた(笑)。

●(笑)。

神谷: でも高木くんはチャレンジャーだよな。普通なら今後のこととか、ファンの反応とかを考えてもいいんだらうけど、それで「面白いからやっやおう」っていう。そこがきっと僕と合うんだらうな。僕も「こんなことをしたら怒られるかな?」って薄々わかってるんだ(笑)。

よっくん: 「怒られるからでも遅くない」ってくらいじゃないと何もできないと思うよ。それに神谷くんたちが本当に一生懸命な人たちだったから、純粋にそれを見てあげてほしいと思ったんだよね。

神谷: どこかに壁があるとか色んな意見が出るから、だからブレずに真実に自分の道を突き進むことが大事だよな。そうすれば最初はみんなごちゃごちゃ言うだろうけど、それがブレていなくなったら多分誰も何も言えない。そこまで突き抜けないといけないとは今すぐ思うよ。

●出会いから約2年かかって出来上がった2曲を改めて聴いて感想は?

神谷: 自分が送ったメッセージが歌詞になっていて、しかも僕は単に自分の想いを伝えただけなのに、それがちゃんと描写として上手く表現されて歌になったから、正直「やるなあ、高木」っていうのが感想ですね(笑)。

よっくん: 説明会や飲み会に参加して「面白い意見を言ったな」と思ったらメモを取ったりもしていたけど、最終的には神谷くんからもらった「龍馬プロジェクト」のキャッチフレーズがいくつか記された紙を参考にした。そこには「日本丸って

いう大きな船があって、日本国民が乗っている。実は船は洗みそうなのに、みんな甲板にも出てこず自分の部屋ばかりを綺麗にしている。洗めは綺麗にしている部屋なんか無くなってしまふのに。だから臭かかぬ?」っていうことが書いてあって、俺自身がそれを読んでドキっとしたんだよね。俺も自分や自分の大切な人が可愛いと思う、船室を掃除しているタイプだ。すごくいい内容だし、聴いた人はみんなドキっとするんじゃないかなと思って、これを歌詞にした。

神谷: でもこの曲に政治的なメッセージが入っているとは思わないよね。

よっくん: そうなんだよね。でもこれが「政治」って見方捉えられるだけで構えて懸かるのがむしろいい、反応が面白いと思う。だからこの歌に答えがあるような気がするな。だってこの曲の歌詞は、俺が普段歌っているメッセージとかなり変わらないうから。最初は神谷くんの気持ちで代弁するよう感じだったけど、結局はこうなるんだなと思った。

神谷: 手段が違っただけでやっていることは一種なんだよね。

よっくん: もちろん俺は日本を変えるために音楽をやっているわけではないけど。ただ、自分の想いを伝えるっていうことは完全に一緒で、その先の目的とかが違うだけであって。

神谷: 僕たちだって最終的に大きいことを言えば日本のためだけ、普段から毎日「日本のために」なんて思っているわけじゃない。自分の身の回りだったり、吹田市の人をちょっとでも元気にしたいと思っている。ミュージシャンは自分の想いが伝わるのはCDが売れるでしょ? 僕たちは想いが伝われれば票が増えるんだよ。

よっくん: 俺たちはお客さんのことを「ファン」と呼ぶけど、有権者も一種の「ファン」なんだね。「ファン」をいかに増やすかっていうところは職は違えど一緒なんだな。

神谷: 若い人で貧乏だし。共通点がいっぱい(笑)。

よっくん: 1人1人に命を賭して伝えていくという精神は全く一緒だしね。

●それこそ、インディーズバンドの活動とやっていることは一緒ってことですよね。

神谷: 「インディーズ政治家」っていいですね。メジャーには所属していないっていう(笑)。そう

いう風に考えたら、若い人たちの政治家に対する見方が変わるかもね。今思っただけ、演説会じゃなくて「ライブ」って呼んだら若い人も来てくれるかも? 僕たちの「ライブ」は「演説」だから、そう呼んでもおかしくないよね(笑)。

よっくん: まさそうだね(笑)。なんか誤解なく「こんなこともアリじゃない?」って感じじゃなく「なんでもないいいね」。「簡単に考えることじゃないでしょ?」って言われたら「確かにね」って言うしかないんだけど、でも誰もやったことがないんだからわからないじゃん。その結果は誰も知らないんだから、「やっやからじゃない」なんてこと

はない。俺は想像だけでいいやい言うことではないと思うんだよね。

神谷: 僕が政治家のパーティーにロックバンドを呼ぶと言ったとき、みんなが政治家に対して偏見があるように、政治家からも「チャラチャラしてると思われるんじゃないの?」とか「年輩の人たちが引くんじゃないの?」っていう意見は出た。でも実際にザ・マスミサイルのメンバーに来てもらって歌ってもらっても、クレームなんて出なかったからね。むしろみんな「よかった」って言ってくれたから、本当にやってみなきゃわからない。

よっくん: 色々と言う人は絶対にいるだろうけど、その人たちにに対しては別にいかに伝えていくことが大事だよな。だから今回、神谷くんをJUNGLE LIFE編集部に連れてきたわけだし。時間はかかると思うし、俺だって一国民として「龍馬プロジェクト」がどうなるのかは、ちゃんと見ながら付き合っていくかなあかんと思っている。

だって「龍馬プロジェクト」が悪い組織になっていく可能性はゼロではないからね。でも今自分たちがやっていることにに対しては不安はない。

●それでも様々な意見が飛び交うと思うんですよね。その誤解をどう解いていくのが、今後重要だと思うんです。

よっくん: もう既にHPやブログでいくつも見えはいたでいて、その中でも「ザ・マスミサイルのCDが欲しいから買うけど、その買ったお金が政治資金に使われるとしたら違うと思う」という意見があった。でも実際のところって、本の価格をめちゃくちゃ抑えたから、印税って少ないんじゃないの?

神谷: 出版社側からも「その価格だと印税は見込めませんよ!」って言われているんだよね。しかもたて少し入ったとしても、著者が101人もいるから割れまわってしまう(笑)。

よっくん: もうたて少し入ったとしても、著者が101人もいるから割れまわってしまう(笑)。

神谷: うちの中でも「なんでもザ・マスミサイルの?」っていう意見があった(笑)。でも本当に、入りは「面白いことをやっているな」というと思う。それにそれで票が増えるとか、何かに期待しているわけじゃなくて、まさかこういふ想いの人たちがいるっていうことを知ってほしいんだよね。そのための本だし、そのための対談なんだから。

よっくん: 俺は吹田に住んでないから彼に投票することは当然できないし、だから彼を盛り上げようかっていうことではなくて、単純に面白いヤツがいるから紹介したいと思って今回連れてきた。俺もまだ少し第三者的に政治を見ている部分があるけど、「神谷くんだったらもししたら面白いことをするんじゃないかな?」っていうのは心から思うな。

Interview: 中略 亜紀(ゆとり第一世代)



『100人の龍馬』

PHP 出版
ISBN 978-4-569-79417-4
¥1,500(税別)
22年12月24日発売
(2011年1月7日第1刷発行)

本の詳細、龍馬プロジェクトの詳細はHPまで

<http://ryouma-project.com/>

ザ・マスミサイル

5th フルアルバム レコ発ツアー2010~2011「あいたいあいてにあいにいけ!」

1/08(土) 神井music zoo 大塚と虎
1/09(日) 米子AZTIC laughs
1/10(月) 岡山CRAZYMAMA KINGDOM
1/14(金) 徳島Club GRINDHOUSE
1/15(土) 高知 X-pt
1/22(土) 金沢 vanvanV4
1/23(日) 札幌 B b
1/24(月) 名古屋ミュージックファーム
1/28(金) 豊後 el knot

1/29(土) 清水 JAMJAMJAM
1/30(日) 大塚 LIVE SQUARE 2nd LINE
2/04(金) 福島アクトライン
2/05(土) 水戸 LIGHT HOUSE
2/06(日) 舞台 HEAVENS ROCK VJ-1
2/11(金・祭) 新潟 GOLDEN PIGS BLACKSTAGE
2/12(土) 仙台 enn
2/13(日) 宇都宮 HEAVENS ROCK VJ-2
2/19(土) 高崎 Club FLEECE

2/27(日) 横浜 BAYSIS
3/05(土) 郡山 #9
3/06(日) 千葉 LOOK

TOUR FINAL
「絆の旗幟カタルシス」
3/25(金) 大津京楽劇場
3/26(土) 吉祥寺フラナートK
3/27(日) 渋谷京楽劇場